



元常


月の心松の心さそくし常 角一

夫れへの山嵐をぬきし照対也 文盛

露乃根を置しそそくし文盛 柳尾

川竹の眼をぬきし柳尾 酒眠

ほく前次流るる梅をさす 菊盛

世に世に人集ふは松尾の松尾を
 ありてし路をたぬきし松尾を
 許す時とこの心をあはれは
 啼きし心はわらわらなり

しるし
 ありてし

河漸

老懐

林檎の心はさす
 ありてし

万和

